

I 研究主題

地域に誇りをもち、夢に向かって大きく羽ばたく児童生徒の育成
～様々な場面で意欲的に活動できる児童生徒の育成を目指した『くしま学』の創造～

II 主題設定の理由

現在の学校では、小学校から中学校へ、中学校から高等学校への進学時に起こるとされるいわゆる中1ギャップ、高1ギャップの問題や、中途採用問題など職業意識の欠如などが問題になっている。また、地域では、進学・卒業後の地域離れ等の問題も課題となっている。

このような背景を踏まえ、宮崎県は、『宮崎の教育創造プラン』を策定し、平成17年度から『明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト』で、「幼・保・小連携モデル事業」「小・中連携モデル事業」「中・高連携モデル事業」を立ち上げて取り組んでいる。

一方、串間市の学校現場では、10年前より約4割も児童生徒数が減少し、複式学級等の増加や部活動の存続ができないことによる学校再編の必要性が議論されている。また、教育懇話会などでは一貫教育の必要性や構造改革特別区域（以下、特区）計画への提出が要望されていた。

これら現状を踏まえ、串間市は、特区申請の認定により、総合的な学習の時間を一部使った地域学という新教科（『くしま学』）が認められた。この『くしま学』においては、小中高等学校の12年間を通して、自分自身の今の生活や今後の生き方等を結びつけながら、地域の歴史や文化等について系統性・一貫性を持って学ばせることで、串間に誇りを持ち、地域に貢献する児童生徒の育成を目指している。

これまで、総合的な学習の時間において、地域学習として地域素材を取り扱った学習に取り組んでいる小中高等学校は多い。しかし、多くは学年ごとの目標や内容が明確になっていないため、小学校と中学校、中学校と高等学校とが同じような内容で活動するなど重複が見られたり、体験活動や調べ学習だけに終わったりしている状況等が見られることは否めない。『くしま学』は、特区認定の前提条件として、新教科の35時間を総合的な学習の時間から充てているため、総合的な学習の時間で身に付けさせたい資質や能力も身に付けさせる必要がある。

そこで、新教科である『くしま学』では、総合的な学習の時間で身に付けさせるべき資質や能力とともに、「教育の質の向上」「ふるさと教育の推進」「キャリア教育の推進」という3本の柱で教科構成を行っている。「教育の質の向上」では、近隣の小中高等学校が一体となり、円滑な連携や接続を図り、発達段階に即して系統性・一貫性のある継続的な指導を行うこととしている。「ふるさと教育の推進」では、地域を取り上げることで、児童生徒に切実感をもたせやすかったり、身近な社会事象であるため、直接体験ができ、気づきや課題意識を持ちやすく、思考・判断するための材料として、生活経験を活用できたり、多様な資料を入手することが可能であり、地域素材を扱った授業計画を立案したりすることとしている。「キャリア教育」では、『くしま学』と総合的な学習の時間との違いを明確化することで、自分の将来や地域の未来について考える姿を導き出すことができるものとしている。

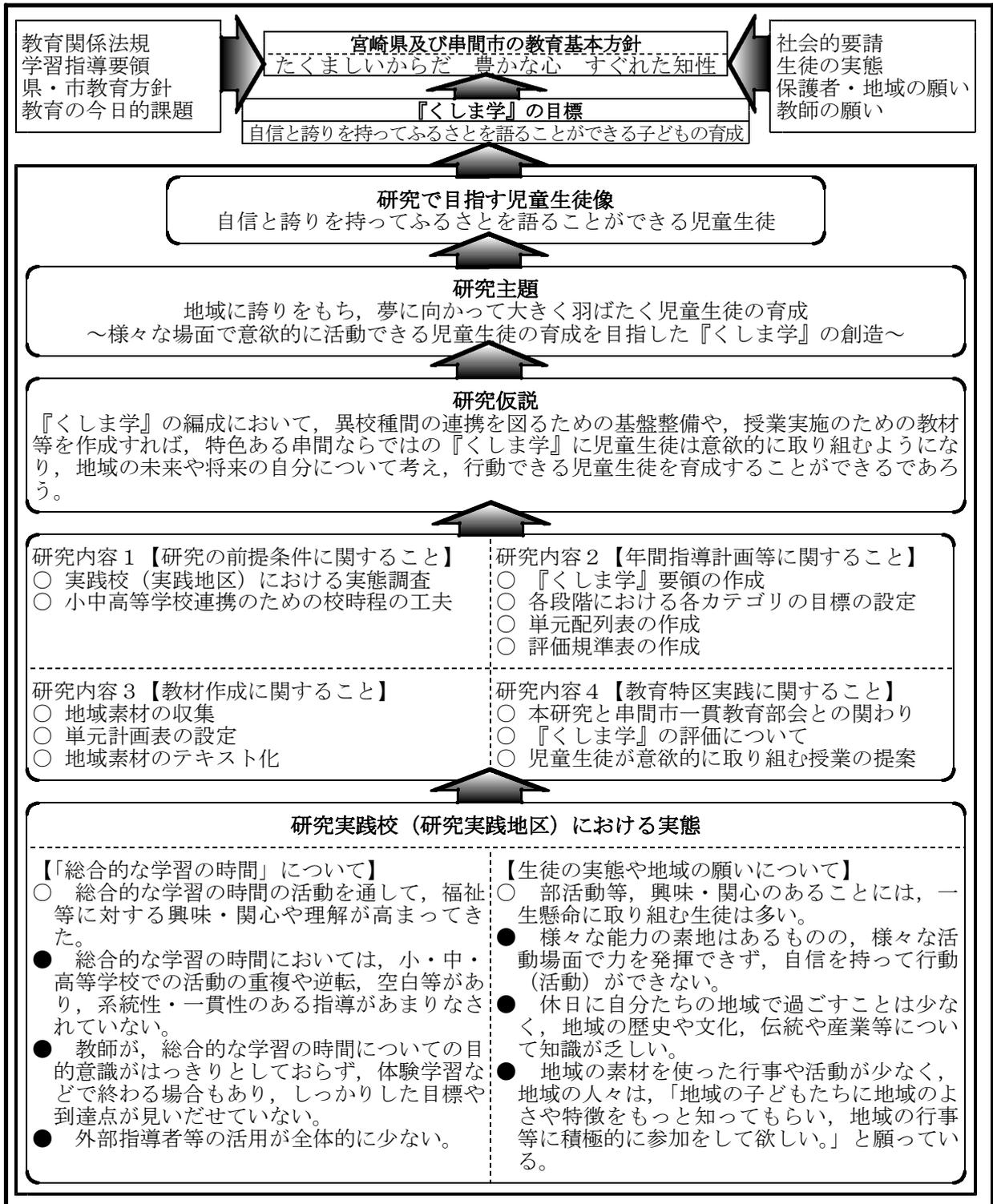
本研究では、『くしま学』を創造するために、4つの研究内容から研究を構成することとした。地域に自信と誇りを持ち、地域に貢献できる人材の育成を目指して取り組む『くしま学』は、近隣の小中高等学校が一体となって、円滑な連携・接続を図る必要がある。また、発達段階に即して系統性・一貫性のある継続的な指導を行うことにより、児童生徒によりよい教育環境とより質の高い教育を提供することが可能であると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究の仮説

『くしま学』の編成において、異校種間の連携を図るための基盤整備や、授業実施のための教材等を作成すれば、特色ある串間ならではの『くしま学』に児童生徒は意欲的に取り組むようになり、地域の未来や将来の自分について考え、行動できる児童生徒を育成することができるであろう。

Ⅳ 研究の全体構想

1 研究の全体構想図

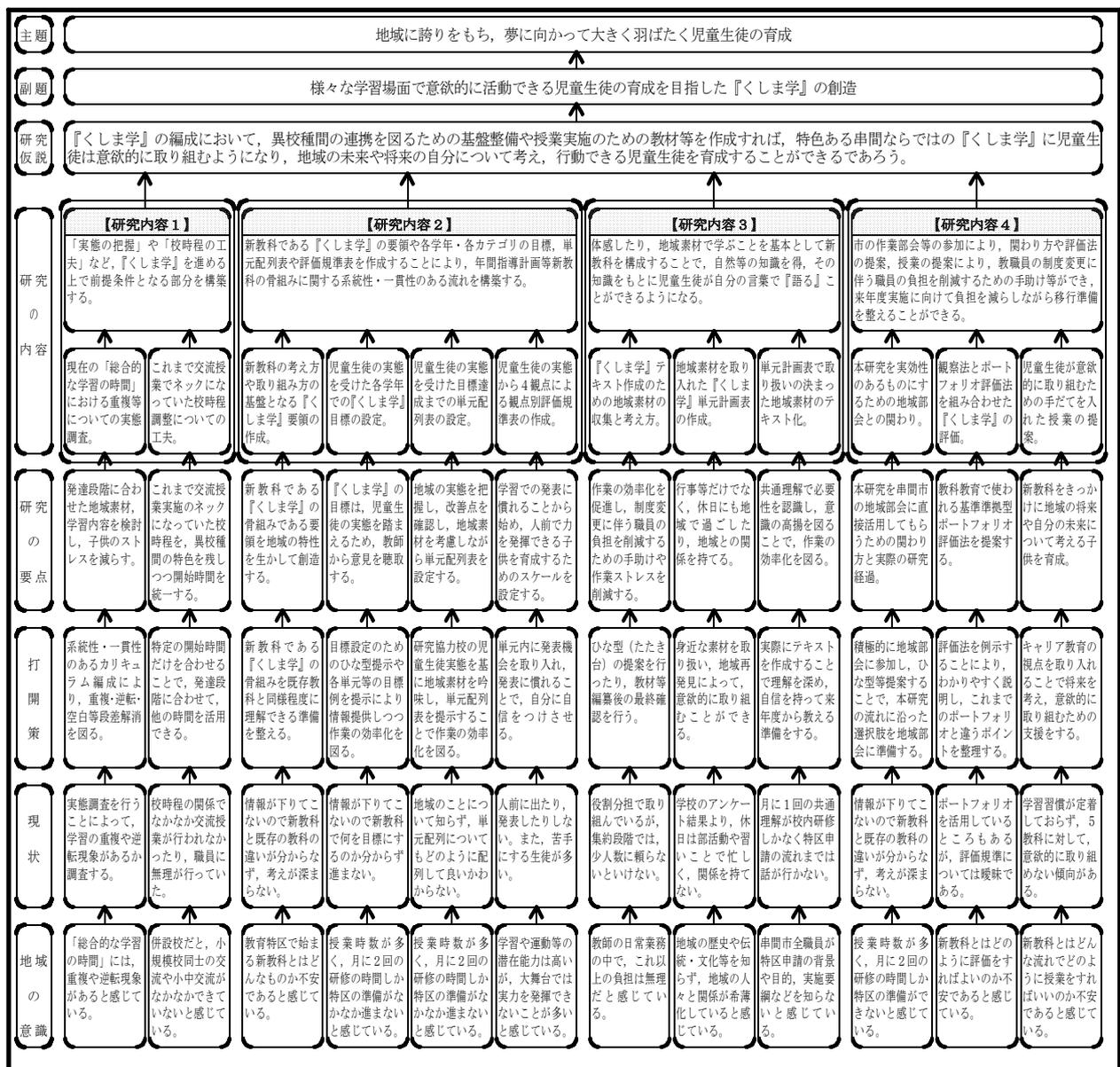


【図1 研究の全体構想図】

2 研究の基本的な考え方について

新教科である『くしま学』では、「教育の質の向上」「ふるさと教育」「キャリア教育」という3つの柱で教科構成を行っている。「教育の質の向上」では、近隣の小中高等学校が相互に連携を図り、系統性・一貫性を重視した指導計画の作成により、継続した指導を行うこととしている。「ふるさと教育」では、地域を取り上げるといことは、児童生徒にとって身近な社会事象であるため、直接体験ができ、気づきや課題意識や切実感を持たせやすいという利点がある。また、思考・判断するための材料として生活経験を活用できたり、仮説検証のための多様な資料を入手することが可能となり、地域素材を取り扱った授業計画を立案することで達成可能であるとしている。「キャリア教育」では、児童生徒に、地域の歴史・伝統・文化・産業などや地域に貢献した人物の生き様から自分の生き方を考えさせることで、それぞれのよさや課題を発見し、将来について考える姿を導き出すことができるであろうとしている。

そこで、児童生徒の実態を具体的に把握し、児童生徒の生活環境である地域の現状から、目指す児童生徒像までの道のりを確認しながら本研究を進めることとした。（【図2】参照）



【図2 研究の基本的な考え方】

V 研究の経過

月	研究内容	研究事項	研究方法	備考
4	研究の方向性	○ 研究主題・仮説・主題設定の理由等の検討 ○ 研究計画書の作成	理論研究 理論研究	
5	資料収集	○ 他県・他地域の推進状況とその課題の把握 ・ 串間市一貫教育作業部会での意見交換・研究内容の修正	理論研究 調査研究	
6	方向性の確認	○ 各学校・各関係機関との確認・連絡・提案 ・ 串間市一貫教育作業部会での意見交換・研究内容の修正	調査研究 調査研究	
7	研究理論構築 資料等の収集	○ 研究主題，仮説，主題設定の理由等の検討 ○ 『くしま学』で取り扱う地域人材の発掘・精選 ○ 『くしま学』の単元配列表の提案 ○ 『くしま学』年間指導計画等のひな型の提案 ・ 串間市一貫教育作業部会での意見交換・研究内容の修正	理論研究 理論研究 理論研究 理論研究 調査研究	
8	研究理論再構築	○ 『くしま学』の総則・カテゴリ等の提案 ○ 『くしま学』のテキストの作成 ○ 『くしま学』のウェブページ等のひな型の提案 ○ 『くしま学』の単元計画表の作成 ○ 『くしま学』で取り扱う素材の検討と吟味 ・ 串間市一貫教育作業部会での意見交換・研究内容の修正	理論研究 理論研究 理論研究 理論研究 理論研究 調査研究	
9		○ 『くしま学』の単元配列表の仮決定 ○ 『くしま学』要領等の仮決定 ○ 『くしま学』の単元計画表の改訂	理論研究 理論研究 理論研究	
10		○ 『くしま学』年間計画の提案 ○ 『くしま学』のウェブページ等の再提案 ・ 串間市一貫教育作業部会での意見交換・研究内容の修正	理論研究 理論研究 調査研究	
11	研究理論再構築	○ 『くしま学』年間指導計画の修正と仮決定 ・ 串間市一貫教育作業部会での意見交換・研究内容の修正 ○ 『くしま学』要領等の決定 ○ 『くしま学』のテキストの校正 ○ 『くしま学』の単元配列表の決定 ○ 『くしま学』の単元計画表の決定 ○ 『くしま学』年間指導計画の決定 ○ 『くしま学』評価の提案	理論研究 調査研究 理論研究 理論研究 理論研究 理論研究 理論研究 理論研究	
1	研究報告書作成	○ 研究報告書の原稿作成と校正 ○ 『くしま学』のテキストの提案 ○ 『くしま学』のホームページ等の決定 ・ 串間市一貫教育作業部会での意見交換・公開授業 ○ 研究報告書の作成 ○ 『くしま学』のテキストの完成	理論研究 理論研究 理論研究 調査研究 理論研究 理論研究	
2	研究発表会準備	○ 発表原稿，プレゼンテーションの作成 ○ 『くしま学』の評価についての考え方について提案 ・ 串間市一貫教育作業部会での意見交換	理論研究 理論研究 調査研究	
3	研究発表，反省	○ 研究のまとめと反省	理論研究	

VI 研究の実際

1 研究の基本的な考え方

(1) 研究主題・副題について

ア 「様々な場面」とは

本研究において「様々な場面」を、新設される『くしま学』の学習において、地域の素材を活用する授業や地域の素材での体験的な活動などの場面と設定し、また、「地域素材での体験的な活動」を、意図的・計画的に行われる活動とした。

イ 「意欲的に活動する」とは

本研究において「意欲的に活動する」を、「児童生徒が学習や体験的な活動から、課題を設定し、問題解決の方法を追究し、積極的に活動すること」と定義した。

ウ 「『くしま学』の創造」とは

児童生徒が、「意欲的に活動する」ためのカリキュラム編成全てにわたるものを指し、新教科の「地域の素材発掘」「単元配列表」から「年間指導計画」「テキスト・単元配列表」までの編成を実施する。編成終了後に、カテゴリや単元を決め、どのような場面設定や手だてを取ることで、児童生徒が「意欲的に活動」するための授業の提案ができるかと考えた。

2 研究内容 1 【研究の前提条件に関すること】

(1) 実践校（実践地区）における実態調査

本研究を進めるにあたり、「中央教育審議会 義務教育特別部会（第33回・第34回）議事録・配付資料 総合的な学習の時間の成果と課題」¹⁾（文部科学省）で指摘されている成果と課題について、串間市で同様のことがいえるか検証することとした。以下、成果と課題について例示する。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 教科の枠を越えた横断的・総合的な課題（国際理解など）について学習できる。○ ふだん体験できないような自然体験や社会体験などさまざまな体験活動を行うことができる。○ 情報の集め方や調べ方がわかるようになってきた。○ 自分の考えたことをうまく文章にしたり発表したりできるようになった。● 自ら学び考えるなど方法論に主眼が置かれている「総合的な学習の時間」と各教科は性格が異なり、教育課程全体における位置付け、評価、系統性などの点について、もう一度整理することが必要である。● 総合的な学習の時間でどのような力を育てるのかをはっきりさせることが必要である。● 教科と比べると総合的な学習の時間は目標や性格が不明確である。● 問題解決能力の育成や知の総合化が重要である。特に小学校では、地域の社会、自然、文化の環境から体験を通して課題を見つけ、考え、解決していく能力や学び方が大事である。● キャリア教育など新たな課題への対応が求められる中で、「総合的な学習の時間」の内容が細切れになっており、各教科と総合的な学習の時間のどこで学習するか検討することが必要である。 |
|--|

はじめに、これまで行われてきた総合的な学習の時間での、各校種間での学習内容の逆転や重複等があるかを調査するために、串間市内の各小学校や中学校より、総合的な学習の時間の年間指導計画を収集した。各中学校区ごとに小学校と中学校で取り扱っている内容・項目について列挙し集約した。

次に、列挙した内容と5カテゴリ（[A串間の自然・環境と自分] [B串間の歴史・伝統と

自分] [C串間の産業・生活と自分] [D串間の未来と将来の自分] [E串間の人物]) との
 関係を見るために、各学校の総合的な学習の時間で取り組んでいる内容を『くしま学』で扱う
 5つのカテゴリに再分類した。(【表1】参照)

【表1 各小中学校で取り扱う内容一覧(福島中学校区内)】 (一部省略)

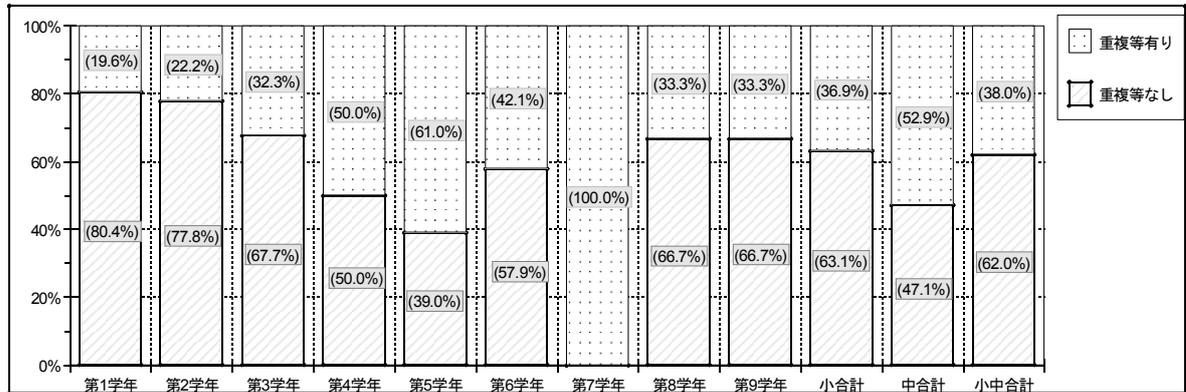
串間市の「生活科・総合的な学習の時間」系統一覧(金谷小○, 有明小△, 笠祇小◇, 福島小☆)とカリキュラムの重複・空白一覧	4年(小4)	5年(小5)	6年(小6)	7年(中1)	8年(中2)	9年(中3)
A 串間の 自然・環境と 自分	●田植え④ ○海の生き物⑥ ○海の世界⑩ △海の漂流物⑫ △ウミガメの課題⑥ △ウミガメの調査⑦ ◇花壇の計画④ ◇環境問題④ ◆米野菜等の栽培⑤ ◇笠祇の生き物⑤ ◇川の生き物⑥ ◇笠祇山の調査⑥ ◇花の栽培と観察⑨ ◇除草作業⑩ ◆米野菜等の栽培⑪ ◇除草作業⑩ ◆米野菜等の収穫⑫ ◇笠祇の生き物⑫ ☆自然調査・まとめ⑨	●田植え④ ●稲の観察・収穫⑨ ○海の生物⑩ △農水産物の調査⑥ △海の調査研究⑩ ◇環境について考察⑥ ◆田植え調査⑦ ◆合鴨農法調査⑦ ◆鎌を使った稲刈り⑨ ◆有機農法の調査⑨ ◇笠祇地区の環境⑩ ◇花の栽培と観察⑩ ◆収穫祭⑩ ◇環境調査の発表⑫ ◇環境調査の発表⑫ ◇環境調査の発表⑫ ★稲作の調査④ ★田植え芋植え体験⑤ ★米の調査水分検査⑥ ★稲刈り・食の在方⑦ ☆芋の収穫 ☆産地消の食べ物⑩ ★感謝祭の計画⑫	●田植え④ ●稲の観察・収穫⑨ ○海の生物⑩ ◇環境について考察⑥ ◆田植え調査⑦ ◆合鴨農法調査⑦ ◆鎌を使った稲刈り⑨ ◇笠祇地区の環境⑩ ◇花の栽培と観察⑩ ◆収穫祭⑩ ◇環境調査の発表⑫ ◇環境調査の発表⑫ ◇環境調査の発表⑫ ☆環境調査⑥ ☆環境調査の情報⑦ ☆環境調査のまとめ⑨ ☆周囲の自然調査⑩ ☆環境調査発表会⑪	●田植え③ ○餅つき①	●稲刈り⑥ ○餅つき①	
B 串間の 歴史・伝統と 自分	○盆踊り継承⑦ ○文化財や伝説調査①	○盆踊り継承⑦ ○自然・歴史探検①	○修学旅行計画⑥ ○盆踊り継承⑦ ○自然・歴史探検① △歴史・祭りの調査④ △歴史の課題設定⑤ △鹿児島島の歴史文化⑫			
C 串間の 産業・生活と 自分	●福祉体験⑥ ●高齢者との交流⑦ ●ボランティア活動⑨ ●高齢者との交流⑩ ▲福祉施設訪問準備① ▲福祉施設訪問準備② ★高齢者の疑体験④ ★施設訪問⑦ ★福祉施設設備調査⑩ ★重い体験⑩ ●クリーン作戦⑨	●福祉体験⑥ ●高齢者との交流⑨ ●高齢者との交流⑩ ●ボランティア活動⑩ △農水産業の課題④ ▲福祉について調査③ ◆協働について体験⑩ ◆高齢者との交流会⑫ ◆高齢者との交流会⑫ ◆高齢者との交流会① ◆高齢者との交流会② ◆高齢者との交流会②	●福祉体験⑥ ●高齢者との交流⑨ ●高齢者との交流⑩ ○ボランティア活動⑩ ◇協働について体験⑩ ◆高齢者との交流会⑫ ◆高齢者との交流会① ◆高齢者との交流会② ☆福祉体験(発表)⑫	●福祉について調査⑤ ●福祉体験活動⑥ ●福祉体験活動②	●職業調査⑤ ●職場体験学習⑦	●上級学校調査⑤ ●福祉の意見文①
D 串間の未来と 将来の自分		○クリーン作戦⑦ ○海のクリーン作戦⑩ ○海を守る看板作成⑫ ○環境保護活動① △将来の夢① ☆産地消広報活動①	○クリーン作戦⑦ ○海のクリーン作戦⑩ ○海を守る看板作成⑫ ○環境保護活動① ☆奉仕活動①	●ボランティア活動③	●立志式の準備① ●立志式②	●県立高校説明会⑥ ●国際理解⑫ ●ボランティア計画② ●ボランティア活動③
E 串間の人物	○パソコン活用⑤ ○パソコン活用⑩ △パソコン活用練習④ △自己紹介⑤ △交流会の準備⑩ △発表会の準備⑩ △発表会での発表⑫ ◇情報の収集方法⑦ ◇資料の効果的活用⑦ ◇交流会計画⑩ ◇表現活動⑩ ◆電子メール受信① ◇ホームページ検索① ◆電子メール受信②	○パソコン活用⑤ ○パソコン活用② △ホームページ検索⑤△ 発表会の準備⑦ △発表会での発表⑫ ◇パソコン活用④ ◇ホームページ検索⑤ ◆電子メールの受信⑥ ◇情報収集の方法⑥ ◇情報の収集③ ◇パソコンでまとめ③ ☆情報の収集⑨	○パソコン活用⑤ ○パソコン活用② △ALT英語活動⑩ △行事への参加⑩ ◇パソコン活用④ ◇ホームページ検索⑤ ◆電子メールの受信⑥ ◇情報収集の方法⑥ ◇情報の収集③ ◇パソコンでまとめ③ ☆ふるさと学習復習④ ☆野菜作り計画⑤ ☆福祉体験発表会②	●校外活動準備⑦ ●発表会の準備⑩ ●発表会での発表⑩ ●発表会での発表⑩ ●ホームページ検索⑫ ●情報収集①	●職場体験事前準備⑥ ●発表会の準備⑩ ●発表会での発表⑩ ●情報収集⑫ ●発表練習と発表③	●高校訪問のマナー⑦ ●発表会の準備⑩ ●発表会での発表⑩

※1 カテゴリ…『くしま学』での学習領域を表し、[A自然・環境と自分][B歴史・伝統と自分][C産業・生活と自分][D串間の未来と将来の自分][E串間の人物]の5カテゴリに分類される。ただし、第5段階では、ABCDEの5カテゴリを統合して、総合単元を設けている。
 ※2 段階…『くしま学』では、小学校1年生から高校3年生までを、身に付けさせたい資質や能力から5段階に分け、小学校1・2年生を第1段階、小学校3・4年生を第2段階、小学校5・6・中学校1年生を第3段階、中学校2・3・高校1年生を第4段階、高校2・3年生を第5段階と分類している。

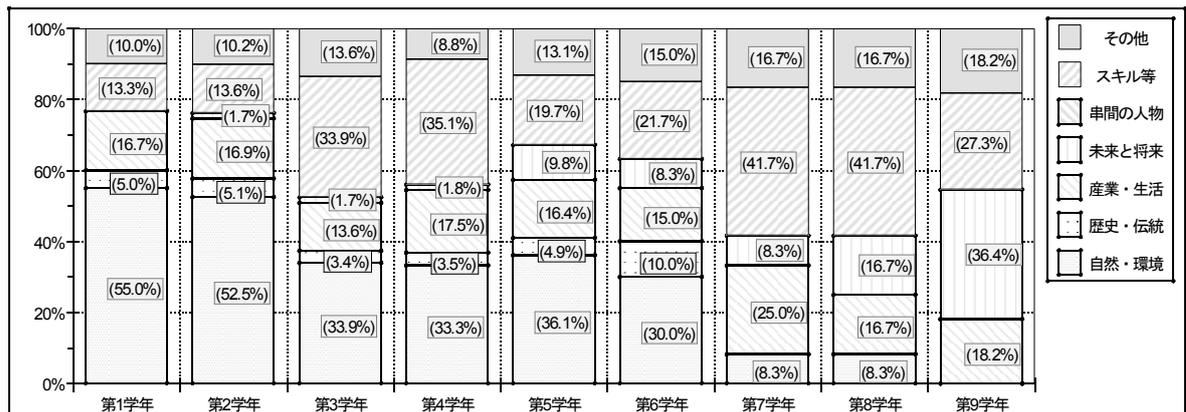
再分類した内容について異校種間で重複や逆転等があった場合には、反転文字で記述し、現在の総合的な学習の時間の学習内容状況を調査した。

集計の結果（福島中学校区内）、4つのカテゴリはバランスよく扱われていたものの、「E串間の人物」について触れている小・中学校はほとんど無かった。

また、【表1】中の反転文字にしている部分については、学習の逆転や重複等があると認められた部分であり、その割合は、全体の延べ数の約62%に該当する事が確認された。（各学年ごとの重複状況については【グラフ1】参照）



【グラフ1】生活科及び総合的な学習の時間での異校種間における学習内容の重複の割合



【グラフ2】「総合的な学習の時間」で取り扱っている学習内容の分類①

また、そのデータを、『くしま学』で学習するカテゴリに分類し、それぞれの学年の総合的な学習の時間に占める割合を調査した。（【グラフ2】参照）

その結果、各学校ともに、『くしま学』で学習する5カテゴリ以外では、学校行事である文化祭や各発表会に向けての発表練習やまとめ活動のための情報教育やスキル学習として活用したり、他者理解や表現方法習得などのコミュニケーション能力を身に付けさせるための学習する内容が多くを占めていることが確認された。

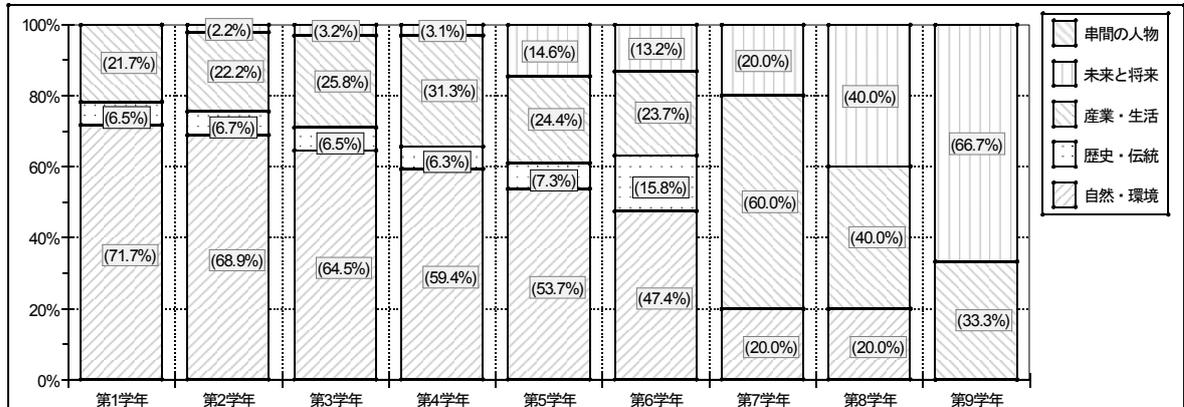
また、『くしま学』で扱うカテゴリに絞って項目の割合を調べたところ、「E串間の人物」に関することについては、学習している学校はなかった。（【グラフ3】参照）

ただし、このデータは福島中学校区内のデータを使用したため、他の中学校区においては、「E串間の人物」を学習している例もある。

【グラフ2】では、学年が進むにつれ、学習内容が身近なところから広がるように単元が配置され、各小学校ともに、これまでも各学年での学習項目については、ある程度発達段階を考慮したものになってたことが明らかとなった。

また、異校種間で学習項目が重なっているところでは、目標についても系統性はなく、学習内容についても逆転の割合は高くなっており、改善の必要があると考えた。

これらの点を踏まえ、『くしま学』で取り扱うカテゴリの学習時間の割合については、[E串間の人物]について発達段階を考慮して導入すれば、各カテゴリがバランスよく配置されたものになると考えた。



【グラフ3 「総合的な学習の時間」で取り扱っている学習内容の分類②】

(2) 小・中・高等学校連携のための校時程の工夫

小・中・高等学校において一貫性や連続性ある指導を行うにあたり、交流授業等を行うことが常時可能な校時程の作成についても行った。（【表2】参照）

共通の校時程作成の利点としては、「校時程を年度当初に合わせておくと日常的な交流の実施が可能である」「体験等交流学习を行う場合等、時間調整をする必要がない」「相互乗り入れで共通理解を図ることは一貫教育本来の目的が達成されやすい」という点が挙げられる。

例えば、小・中・高等学校合同での交流学习をする際に、小学生は中高校生から学ぶことができる。中学生は、小学生に近い立場で教えたり、高校生の先輩から、より深く学んだりすることができる。また、高校生は、年長者として質問などがあった場合に応えたり、まとめたりするリーダー的な立場についても学ぶことができる。

交流学习のように、同じ学習内容でも、役割等を与えることによって、それぞれ目標や目的も異なる。また、教え合い学習や助け合い学習をすることで、それぞれの立場で自覚が芽生え、必然的に全体の学習のレベルが上がるということなどが考えられる。

【表2 校時程の調整についての提案内容】

【小学校・中学校・高等学校校時程の検討例(全日校時程を合わせた場合)】		
福島中学校区小学校	福島中学校	福島高等学校
登庁 ~ 8:10	登庁 ~ 8:05	登庁 ~ 8:20
職朝 8:15~ 8:25	職朝 8:10~ 8:20	朝課外 7:30~ 8:15
読書 8:15~ 8:25	読書 8:05~ 8:25	職朝 8:20~ 8:30
朝の会 8:25~ 8:35	朝の会 8:25~ 8:35	読書 8:05~ 8:25
準備時間 8:35~ 8:45	準備時間 8:35~ 8:45	S HR 8:25~ 8:35
1校時 8:45~ 9:30	1校時 8:45~ 9:35	準備時間 8:35~ 8:45
準備時間 9:30~ 9:40	準備時間 9:35~ 9:45	1校時 8:45~ 9:35
2校時 9:40~10:25	2校時 9:45~10:35	準備時間 9:35~ 9:45
準備時間 10:25~10:45	準備時間 10:35~10:45	2校時 9:45~10:35
3校時 10:45~11:30	3校時 10:45~11:35	準備時間 10:35~10:45
準備時間 11:30~11:40	準備時間 11:35~11:45	3校時 10:45~11:35
4校時 11:40~12:25	4校時 11:45~12:35	準備時間 11:35~11:45
給食 12:25~13:10	給食 12:35~13:10	4校時 11:45~12:35
休憩時間 13:10~13:55	休憩時間 13:10~13:55	昼食休憩 12:35~13:20
清掃 13:55~14:10	清掃 13:55~14:10	準備時間 13:15~13:20
準備時間 14:10~14:20	準備時間 14:10~14:20	5校時 13:20~14:10
5校時 14:20~15:05	5校時 14:20~15:10	準備時間 14:10~14:20
準備時間 14:05~15:15	準備時間 15:10~15:20	準備時間 14:10~14:20
6校時 15:15~16:00	6校時 15:20~16:10	5校時 13:20~14:10
帰りの会 16:00~16:10	準備時間 16:10~16:15	準備時間 14:10~14:20
		6校時 14:20~15:10
		準備時間 15:10~15:20
		7校時 15:20~16:10
		準備時間 16:10~16:25

また、異校種間の連絡調整の手間が少しでも省略できるということで、校時程を合わせておくことは、日常的な異校種間の交流の促進には重要な要素であると考えた。

3 研究内容2【年間指導計画等に関すること】

(1) 『くしま学』の要領の作成

『くしま学』の要領は、「平成19年度新教科カリキュラム検討作業部会」で作成された県版「地域学要領」を参考に作成した。『くしま学』は、3つの柱を基に、「地域素材を一貫性・系統性をもって学ばせる」「串間への理解を深め自己の生き方に生かす」という2つの考えからなっている。それらを受け、地域素材の特徴を最大限に生かせる「A串間の自然・環境と自分」「B串間の歴史・伝統と自分」「C串間の産業・生活と自分」「D串間の未来と将来の自分」「E串間の人物」（高校2・3年生には「総合単元」もある）の5つのカテゴリを設定した。

また、各学年についても、小学校1年生から高校3年生までを、第1学年から第12学年と呼び、12年間を異校種間をまたいで5段階に分類した。『くしま学』を構成する目標や内容はもちろん、形式的にも一貫性や連続性があるように構成した。

児童生徒の学習内容については、串間市独自で設定するカテゴリや各カテゴリの時間配分、地域素材の独自性に応じて、串間市ならではの『くしま学』要領を作成した。

具体的には、串間市では、特に、自然（本城干潟や本城川の蛭）や産業（観光という側面での都井岬の岬馬や幸島の猿）等の部分に特徴を持っており、低学年ほど地域の自然を体感できる時間を多く配分した。また、学年を追うごとに広い視点に目を向けるような学習項目の配分にした。特に『くしま学』要領では、県版の「地域学要領」よりも自然については取り扱いを大きくすることとした。

作成した『くしま学』の要領は、研究推進部に提案し、串間市一貫教育作業部会で、要領の検討を行った。『くしま学』の要領については、以下に一部示す。（【資料1】参照）

(3) 串間の産業・生活と自分

「串間の産業・生活と自分」では、串間の産業・生活の実態や、働くことの意義や役割について理解し、串間の産業や人々の生活をよりよくしていこうとする態度や串間の産業・生活を発展・向上させ、豊かな串間社会の実現に向けて考える資質や能力を育てることをねらいとしている。そのために、次の事項について学習を進めていく。

- 串間の産業・生活の実態について知り、その特色や課題を理解すること。
- 串間の産業・生活と職業とのかかわりについて理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深めること。
- 串間の産業・生活の発展・向上、自分の役割について考え、自分にできる方法で実践しようとする。
- 串間の産業・生活を発展・向上させ、豊かな串間社会の実現に向けて、自分の生き方と関連させ、生涯にわたって串間の取組に参加しようとする。

(4) 串間の未来と将来の自分

「串間の未来と将来の自分」では、串間の自然・環境、歴史・伝統、産業・生活など、串間の現状や課題を総合的に理解し、串間の一員として串間の未来を創る資質や能力を育てることをねらいとしている。そのために、次の事項について学習を進めていく。

- 串間の自然・環境、歴史・伝統、産業・生活など串間の現状や課題を総合的に理解すること。
- 串間の現状や課題と自分の生活とのかかわりについて認識を深め、串間の未来や自分の生き方について考えること。
- 串間の現状や課題から、串間のよさを生かした串間の創造について考え、自分にできる方法で実践しようとする。
- 串間の一員として、串間を的確にとらえ、生涯にわたってよりよいふるさとを創っていくために積極的に参加しようとする。

(5) 串間の人物

「串間の人物」では、串間で活躍した人物や串間に残した学術的に残っている人物の足跡をたどることで、人の生き方について考え、串間の一員として串間の現状や課題を総合的に理解し、自己理解を深め、国際社会を生き抜く力を育てることをねらいとしている。そのために、次の事項について学習を進めていく。

- 串間の人物の活躍や足跡について理解をすること。
- 串間で活躍した人物の人に迫ることにより、自分の生き方を見つめ直し、自分の将来について考え、自分の生き方について考えること。
- 串間の一員として、人物の生き方を通して、串間と自分とのかかわりに気づき、串間を大切にしようとする態度を育成すること。
- 串間の一員として、串間を的確にとらえ、生涯にわたってよりよいふるさとを創っていくために積極的に参加しようとする。

【資料1 『くしま学』要領】（一部省略）

(2) 各段階における各カテゴリの目標の設定

『くしま学』は、「A串間の自然・環境と自分」「B串間の歴史・伝統と自分」「C串間の産業・生活と自分」「D串間の未来と将来の自分」「E串間の人物」（高校2・3年生には「総合単元」もある）の5つのカテゴリで構成している。

まず、『くしま学』の目標・教科の内容から、これら5つのカテゴリごとに、児童生徒に身に付けさせたい資質や能力を設定した。また、目標設定にあたり、串間市の一貫教育作業部会において、児童生徒の実態とかけ離れていないかを検討し、串間市の児童生徒の実態と発達段階に合わせた目標の設定を行った。以下に、目標の例として、カテゴリ「B串間の歴史・伝統と自分」の一部を掲載した。（【表3】参照）

これらの目標は、『くしま学』の児童生徒の実態は含まれていないので、来年度、実施しながら目標の見直しにも取り組む必要がある。

【表3 各段階における各カテゴリの目標（例：「B串間の歴史・伝統と自分」）】（一部省略）

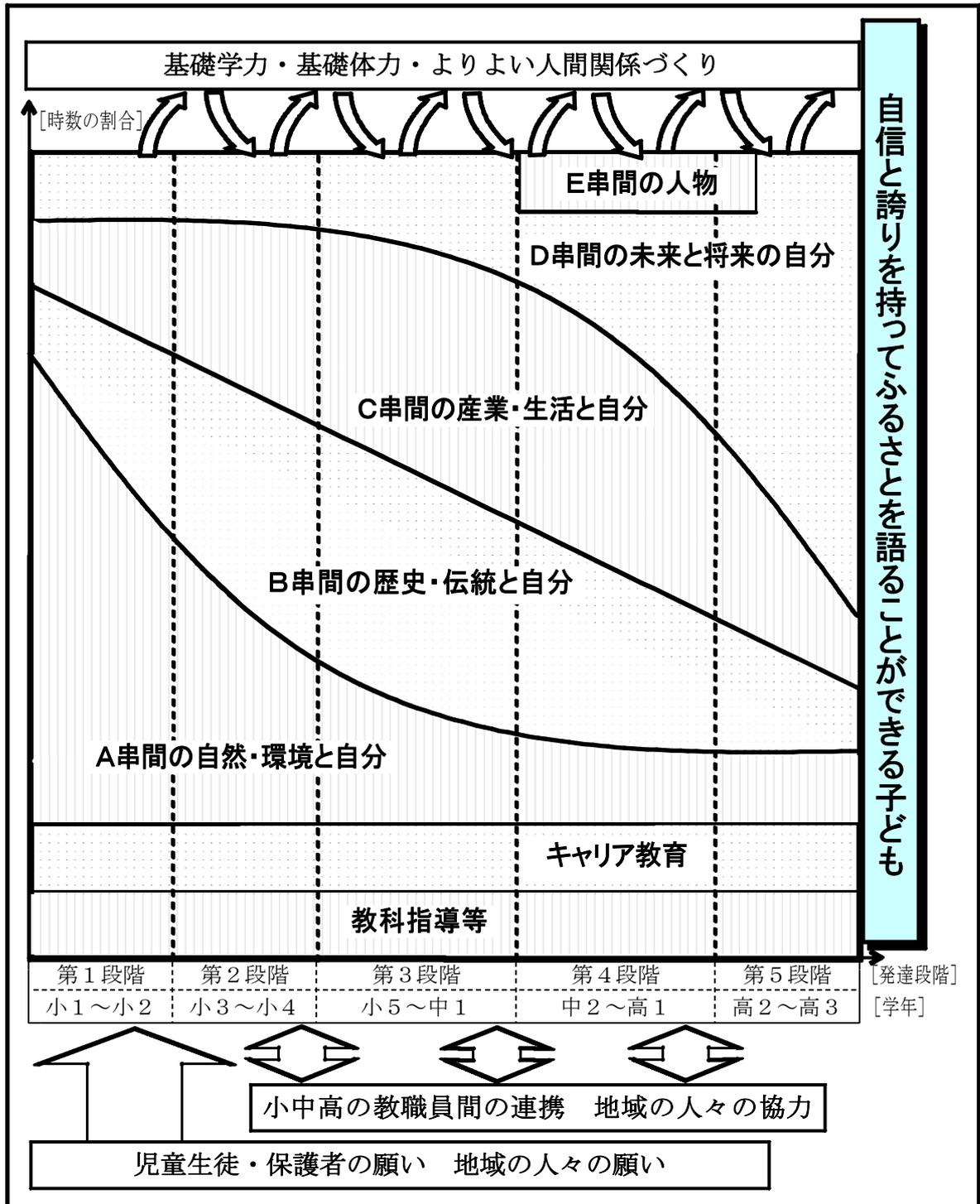
単元名	単元目標【①(関心・意欲・態度)、②(思考・判断)、③(技能・表現)、④(知識・理解)】	身に付けさせたい資質	身に付けさせたい能力
1 地域の人と「伝承遊び」で遊ぼう	①自分の住む地域の人と遊びを通してふれあおうとする。 ②自分の住む地域に伝わる遊びについて気付く。 ③地域の人とふれあう中で、感じたことや気づいたことを絵や文で表す。 ④地域に伝わる昔の遊びを体感的に知る。	積極性 公徳性	集団適応能力 コミュニケーション能力
2 地域の人と「伝承遊び」で遊ぼう	①自分の住む地域の人と遊びを通してふれあおう。 ②自分の住む地域に伝わる遊びについて気付く。 ③地域の人とふれあう中で、感じたことや気づいたことを相手に分かるように絵や文で表す。 ④地域に伝わる昔の遊びを体感的に知る。	積極性 公徳性	集団適応能力 コミュニケーション能力
3 郷土芸能や祭りを探ろう	①串間の郷土芸能や祭りに関心を持ち、大切にしようとする態度を持つ。 ②串間の郷土芸能や祭りを守っていくにはどうしたらよいかを考える。 ③串間の郷土芸能や祭りについて調べ、まとめる。 ④串間の郷土芸能や祭りに込められている地域の人々の願いや思いを理解する。	主体性 創造性	社会的役割認識能力 将来志向能力
4 名所や旧跡を調べよう	①地域の名所や旧跡に興味を持ち、調べようとする。 ②地域の良さやすばらしさに気付く。 ③地域の名所や旧跡をたずね、調べたことや分かったことをまとめる。 ④地域の名所や旧跡を知り、地域の歴史の大切さについて理解する。	主体性 実行性	自己管理能力
5 郷土料理作りに挑戦しよう	①串間の食文化を知り、さまざまな視点から食生活を見直すことで、意欲的に料理に挑戦する。 ②郷土料理と生活との関わりを考える。 ③料理を作る楽しさや食べる楽しさを味わいながら、串間の食材生かして郷土料理を作る。 ④食と健康、食と地域文化など私たちの生活とのつながりを理解する。	主体性 実行性	コミュニケーション能力 将来志向能力
6 地名を調べよう	①串間の郷土芸能や祭りに関心を持ち、大切にしようとする態度を持つ。 ②串間の郷土芸能や祭りを守っていくにはどうしたらよいかを考える。 ③串間の郷土芸能や祭りについて調べてまとめる。 ④串間の郷土芸能や祭りに込められている地域の人々の願いや思いを理解する。	主体性 積極性 適応性 創造性	コミュニケーション能力 社会的役割認識能力 将来志向能力
7			
8 串間の歴史・伝説を知ろう	①全国の時代背景と地域の歴史をくらべることに興味を持って取り組む。 ②時代ごとの出来事や地域にもたらした影響を考察する。 ③地域の歴史的な出来事を資料から読み取り、年表などにまとめる。 ④串間の時代ごとの出来事について理解し、特色を説明する。	主体性 論理性	自治行動能力
9			
10 方言の由来を探ろう	①串間の方言やその由来を知ること、串間に誇りを持ち、方言を大切にしていこうとする態度を身につける。 ②串間の方言から、自分の言語環境について考える。 ③串間の方言を他の地域と比較して、自分の考えと結びつけて表現する。 ④串間の方言やその由来を理解する。	適応性 主体性能力	コミュニケーション能力 将来志向能力

(3) 単元配列表の設定

単元配列表の作成にあたっては、『くしま学』が新設されたばかりで、教師も未経験の教科であるという問題や、小・中・高等学校の連続性・系統性のある単元配列表を作成するという課題があるために、串間市一貫教育作業部会の協力のもと、相互に知恵を出し合いながら作業を進め、以下のようなことに配慮しながら編成を行った。（【表4】参照）

- 児童生徒の実態に照らして妥当と思われる単元配列を心がける。
- 実施学年については、時数・カテゴリ・素材の特性を考慮して配列を行う。
- 教師が地域を知るために、地域素材の取材活動を教師自身が実際に行う。
- カテゴリを横断的にまたがる素材は、他教科との関連も考慮し上学年で扱うようにする。
- 「地域のことを話せる」ことの前提として、他で扱うスキル学習との関連を明確にする。
- 各カテゴリの学習時間と各カテゴリ関連は概念図をもとに構成する。（【図3】参照）
- 学年の段階の分け方は、連続性を確保するために校種間をまたいで構成する。

また、各単元の時数については、【図3】のように、第1段階（小学校1・2年生）においては、カテゴリ「A串間の自然・環境と自分」に関わる時間を多くとり、第5段階（高校2・3年生）においては、カテゴリ「D串間の未来と将来の自分」の部分が增加するような単元時数とした。つまり、串間市の中から特筆すべき地域素材を扱うものの、発達段階や移動可能距離等を考慮してこのような構成とした。作成した単元配列表については、串間市一貫教育作業部会に提案し、地域素材の利用方法や単元の配列、学年の到達目標と照らし合わせて、来年度実施する単元配列表（時数等のイメージについては【表5】参照）を設定した。



【図3 『くしま学』の単元配列表の編成についての概念図】

【表4 単元配列表】(一部省略)

【資料2:『くしま学』学年別単元配列表】												
	第1段階		第2段階		第3段階			第4段階			第5段階	
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	11年生	12年生
	地域に対する興味・関心を高める (地域に触れる)		地域に対して愛着を持つ (地域を知る)		地域の一員としての自覚を持つ (地域を学ぶ・伝える)			地域に対する自信と誇り、所属感を育む (地域を考える)			将来にわたって地域を大切にすることを意識や態度を育む(地域と自己をつなげる)	
A 単元の 自然・環境 費	四季を感じて身近な自然と遊ぼう⑦	四季を感じて身近な自然と遊ぼう⑦	近くの自然(海・山・川)で遊ぼう⑧	近くの自然(海・山・川)で遊ぼう⑧	地域に探ろうI(小中高交流)⑦	単元にある天然記念物を通して自然の大切さを考えよう⑧	地域に探ろうII(小中高交流)⑦	本城川の産を通して自然の大切さや環境について考えよう⑧	本城川を通して自然の大切さや環境について考えよう⑧	本城川を通して自然の大切さや環境について考えよう⑧	地域に探ろうIII(小中高交流)⑦	総合単元「くしま学」で学んだことをもとに論文作成に取り組もう
B 単元の 歴史・文化	地域の人「伝承遊」で遊ぼう⑨	地域の人「伝承遊」で遊ぼう⑨	郷土芸能や祭り探ろう⑩	名所や旧跡を探ろう⑩	郷土料理作り体験しよう⑩	単元にある地名を調べてみよう⑩		単元の歴史・伝説を知ろう⑩			方言の由来を知り聞弁で遊ぼう⑩	
C 単元の 産業・生活			単元の特産物(甘藷)を探ろう⑪	単元の特産物(鶏産物)を探ろう⑪	単元の特産物(柑橘類)を探ろう⑪	単元の特産物(時の特産物)を探ろう⑪				市の予算が執行されるまでを考えよう⑪	道の駅を考えよう⑪	
D 単元の 未来と 将来の私					福祉体験しよう⑫	職場見学をして職業について関心をもとう⑫	職場体験学習をして職業について考えよう⑫	職場体験学習をして職業について考えよう⑫	高校訪問をして自分の進路について考えよう⑫	上級学校調査を行い自分の進路について考えよう⑫	道の駅学習で自分の地域の一員として地域の発展について考えよう⑫	
E 単元の 人物					三戸サツエさんについて知ろう⑬	神戸雄一さんについて知ろう⑬	内野重昭さんについて知ろう⑬	「旧宮住宅」について知ろう⑬	大覚寺義昭の生き方について知ろう⑬			
コラム			市町村名暗記・暗記シート	都道府県名暗記・暗記シート	スキル学習 ・電話のかけ方 ・あいさつの仕方 ・お礼の仕方 レポートの書き方	調査地での心得 ・校外活動の心得 ・交通安全の心得 ・礼法指導 レポートの書き方	ポートフォリオ ・意識 ・活用の方法 ・評価への説明 レポートの書き方	プレゼンソフトI ・基本操作 ・適切な表現方法 ・適切な色合い	プレゼンソフトII ・応用操作 ・7-7の機能 ・効果的な表現 ・適切な表現技術	プレゼンソフトIII ・応用操作 ・効果的な表現 ・発表での留意点	ディベート基礎 ・文章の構成 ・伝達手段の検討 ・自分の意見の根拠	ディベート発展 ・情報の取捨選択 ・主張する技術 ・相手の論議分析 発表の方法IV ・論文等での発表
国語	考えを伝える ・話すこと ・聞くこと	考えを伝える ・話すこと ・聞くこと	考えをまとめる ・書くこと ・読むこと	考えをまとめる ・書くこと ・読むこと	レポートの書き方	レポートの書き方	レポートの書き方					発表の方法V ・論文等での発表

(4) 評価規準表の作成

評価規準表の作成においては、県版「地域学」の評価規準表を基に、『くしま学』版のひな型と評価規準表を作成した。

具体的には、各学年の各単元において、「見つけよう」「探ろう」「まとめて発表しよう」「振り返ろう」の4段階を設定し、各段階ごとに4観点(「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」)について評価規準を設定した。各観点の評価規準の内容については、児童生徒の取り組む望ましい姿を例に挙げるような形で作成した。

また、作成した評価規準表については、作業部会で児童生徒の実態に合うかどうかという視点で検討を行った。

評価規準作成の視点としては、『くしま学』を実践することで、「この教科(単元)を行うことで、児童生徒がどのように活動(変容)して欲しい」とか「教科学習により、このような力を身に付けてさせたい」などという行動観察評価を前提とした評価規準を設定した。(【資料2】参照)具体的な評価方法や評価内容については、後述する。

単元名	季節を感じて 身近な自然と遊ぼう(春・夏)					
分類	A1		評価規準			
	児童生徒の活動	観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
【見つけよう】 ○ 暖かくなって見つけた身近な自然の生き物や様子を遠くで感じ、言おうとする。 ○ 自然がいっぱいの場所の情報を教え合い、遊園画を立てる。	1	○ 暖かくなって見つけた身近な自然の生き物や様子を遠くで感じ、言おうとする。	○ これまでの体験や見たり聞いたりしたものの中から判断することができる。	○ 暖かくなって見つけた身近な自然の生き物や様子を発表することができる。	○ 春と夏の身近な自然の生き物や様子を言うことができる。	
【探ろう】 ○ 春(夏)の自然と、グループで思い思いに遊ぶ。 ○ 植物や生き物を見つけたら、調べたりしながら、遊びを工夫する。	2 ~ 3	○ 見つけた自然を園産などで調べようとする。	○ 地域の自然を生かした遊びを考えることができる。	○ デジカメで記録したり、情報を交換したりすることができる。	○ 地域の自然の豊かさを体感的に理解することができる。	
【まとめて発表しよう】 ○ 触れ合った自然を絵や文でまとめる。 ○ 見つけた自然を紹介する。	1 ~ 2	○ 触れ合った自然を、絵や文にまとめた物を作ろうとする。	○ 伝えやすいまとめ方や発表の形式を考えることができる。	○ 見つけた自然や感じたことが付いたことなどを絵や文で表すことができる。	○ 見つけた自然の名前や特徴、遊び方などが説明できる。	
【振り返ろう】 ○ 自然と遊んだことや作成した資料を見て感想を話し合う。 ○ マイカルタを作成する。	1	○ 活動を振り返り、自然や遊びについて感想を話ししようとする。	○ 地域には豊かな自然が残されていることを考えることができる。	○ 地域の自然や活動についての自分の思いを伝えることができる。	○ 地域の自然についてわかったことや思ったことが言える。	
備考欄	○ 自然と触れ合う場所としては、公園、林、野原、河川敷、海岸・・・など、地域の自然の特性が感じられる場所が適している。安全性も考慮して選定したい。 ○ 関連ホームページ ・ http://himuka.miyazaki-c.ed.jp/index.htm 教育画像集むむか版、みやざきむか学 ・ http://www.sing.co.jp/haru/haru01.htm 四季の自然【新学社】					

【資料2 作成した『くしま学』評価規準表】

4 研究内容3【教材作成に関すること】

(1) 地域素材の収集

テキストや年間指導計画の作成のため、まず、「地域の素材にはどのようなものがあるか」「他の地域と違う串間ならではのものはどんなものがあるか」等、情報を得るために地域素材の調査活動を行った。調査にあたっては、インターネットや書籍等はもちろん、調査活動に出向いた地域の方からも情報提供を得た。



【資料3 地域素材の収集(例)】

また、テキスト等で使用する資料収集では実際に地域素材を見に行く実地調査活動を中心に行った。（【資料3】参照）

調査の項目は、「自然や環境に関すること」「歴史や文化に関すること」「職業や産業に関すること」「行政の取組に関すること」などについて調査を行い、地域素材を洗い出す作業を行った。（この時点ではカテゴリが決定していなかったため、上のような大まかな区分けを行い、調査活動を行った。）

その収集した地域素材をもとに、「単元の目標達成のため目的にあった素材であるか」という観点で、再度調査活動を行い、単元配列表の原案を作成した。それを基に、串間市一貫教育作業部会の委員が再度調査活動を行い、その資料を持ち寄り、単元配列表の組み替えの後、最終決定を行った。

(2) 単元計画表の作成

単元計画表は1学年1カテゴリあたりの流れを示すもので、既存の教科では指導書にあたるものとなる。

1単元は、それぞれの学習を深めるために「見つけよう」「探ろう」「まとめて発表しよう」「振り返ろう」の4つに分かれており、それぞれ学習内容や活動が異なるようにし、1単元の中で、流れをもって取り組めるようにしている。

単元計画表については、あらかじめ研究推進委員会にひな型と例及び作成上の留意点を提示した。そのひな型と例及び作成上の留意点を参考に、推進部会の委員が単元計画表を再度見直した。

単元計画表の作成にあたっては、テキスト等調査活動を行った担当の委員に単元計画表の作成を依頼した。

学年	1年	総時間	7時間	分類	A1
領域	串間の自然・環境と自分				
単元名	季節を感じて 身近な自然と遊ぼう（春・夏）				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域の身近な自然に対する関心をもつ。 地域の身近な自然の豊かな自然環境を学ぶ。 地域の身近な自然を体感的に知る。 				
身につけさせたい資質	主体性、積極性				
身につけさせたい能力	コミュニケーション能力				
単元計画	時間	児童生徒の活動	指導上の留意点		
学習内容 と活動	見つけよう (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 暖かく、(曇く) になって見つけた自然の変化を発表し合う。 自然がいっぱいの場所の情報を教え合い、遊ぶ計画を立てる。 自然・植物、昆虫、鳥、空、土、川、海、山… 	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化を登下校時や生活の中での気づきから発表させるようにする。 身近な自然に目を向けさせることも主体的に遊び親しもうとする意欲を喚起する。 必要に応じて図鑑や生活科の教科書にある遊びの紹介もの(記録用紙、図鑑、デッキ、水筒…)や遊びのグループ、できまりを決めておく。 		
	さぐる (2~3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 春(夏)の自然と、グループで探り、思い思いに遊ぶ。 植物や生き物を見つけたら、遊びを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に気をつけさせる。 計画にこだわらず、遊びを工夫したり、発見したものを図鑑や雑誌したりと遊びが楽しくなるように工夫させる。 自然の姿を写真等で調べさせ、デジタルで記録させる。 		
	まとめて発表しよう (2~3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 触れ合った自然を絵や文でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や写真、イラスト…と発表の形式を紹介し、発表の準備をさせ、まとめる。 発表段階で、発表の準備をさせ、まとめる。 発表の準備段階で、発表の準備をさせ、まとめる。 発表の準備段階で、発表の準備をさせ、まとめる。 発表の準備段階で、発表の準備をさせ、まとめる。 発表の準備段階で、発表の準備をさせ、まとめる。 		
	振り返ろう (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 見つけた自然を紹介する。 自然の姿、色、形、大きさ、におい、触感、など、どんな遊びをしたか…等 	<ul style="list-style-type: none"> 自分(達)が見つけた春(夏)の自然を紹介し、まとめた資料等を用いて、大きな声ではきはきと発表させる。 		
振り返ろう (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 自然と遊んだことや作成した資料を見て感想を発表し、マイカルタを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化に伴う自然の変化のみならず、串間の自然環境に気付いた驚いたことを絵や文でマイカルタにする。 			

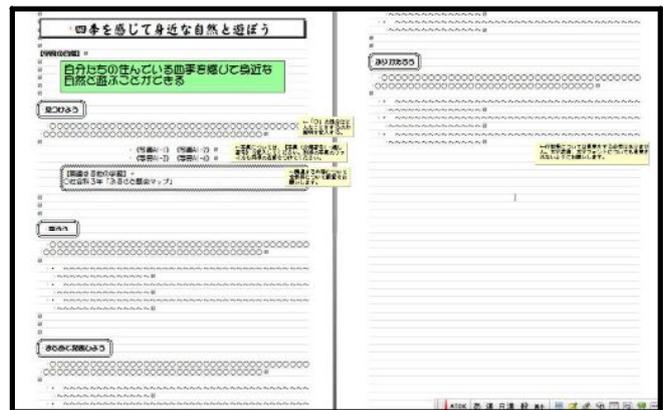
【資料4 単元計画表】

作成時期についてもテキストの調査活動と同様に、夏季休業中に調査活動を行った。学年内のカテゴリ別時間やカテゴリごとの時間配分等については、調査活動の資料等をもとに、各委員同士で話し合いを行い、時間配分や内容を決定した。（【資料4】参照）

また、系統性・一貫性について確認するため、作業部会で各カテゴリごとや各学年ごとに流れを確認し、「児童生徒の実態にもなったスモールステップになっているか」「到達目標が達成可能な計画になっているか」についても検討を重ね単元計画表の作成を行った。

(3) 地域素材のテキスト化

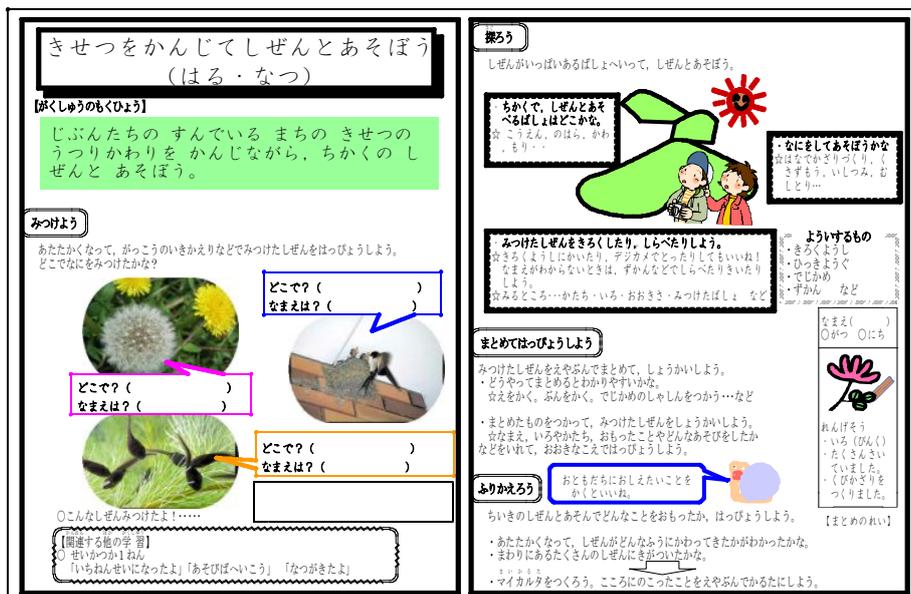
地域素材の教材化については、「地域素材の収集」で集められた情報と地域部会の委員から出されたの情報を元に地域素材の選定を行った。素材選定の基準は、「どの学年で取り扱いが可能か」「地域素材が、どれぐらいのカテゴリの広がりを持ってるか」などについて、児童生徒の実態に合わせて比較・検討した。また、地域素材選定の決定方法としては、本研究で集めた地域素材を基にし、単元配列表の作成時にも各委員の意見を反映させることとした。



【資料5 教科書のひな型提示例】

テキスト作成では、取材活動の前にひな型を例示し、テキスト作成上の留意点をひな型に詳しく記述した。（【資料5】参照）

また、串間市一貫教育推進部会の委員で分担し、それぞれの単元について夏季休業中に取材活動を実施した。作成されたテキストの原案は、一括して編集を行い、その編集した原稿を、作業部会の委員が校正を行い、再度推進部会の委員が校正する形式をとった。テキストの校正を繰り返し行うことで、テキストの間違いをなくすことだけでなく、各委員に地域学の内容を理解してもらおうこともねらいとして実施した。（【資料6】参照）

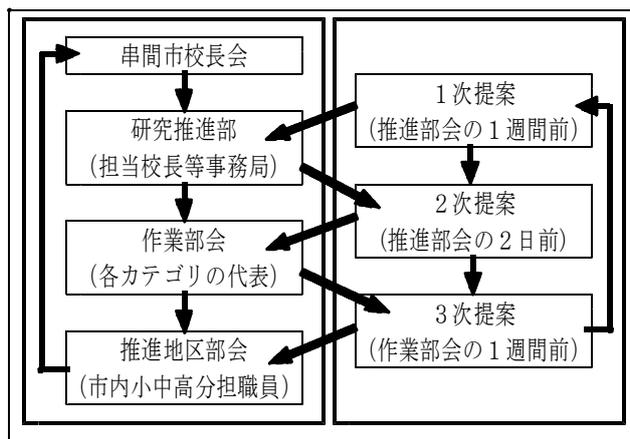


【資料6 作成された『くしま学』テキスト】

5 研究内容 4 【教育特区実践に関すること】

(1) 本研究と串間市一貫教育部会との関わり

本研究で作成した資料を実践可能なものとするために、串間市の部会との関わりを明確にした。関わる方法としては、それぞれの意志決定の会議の前に、『くしま学』部会が必要としている資料の作成・提案を行い、資料提供により研究の方向性を事前に示すことで、一貫教育の協議の流れを作ることにした。（【資料7】参照）

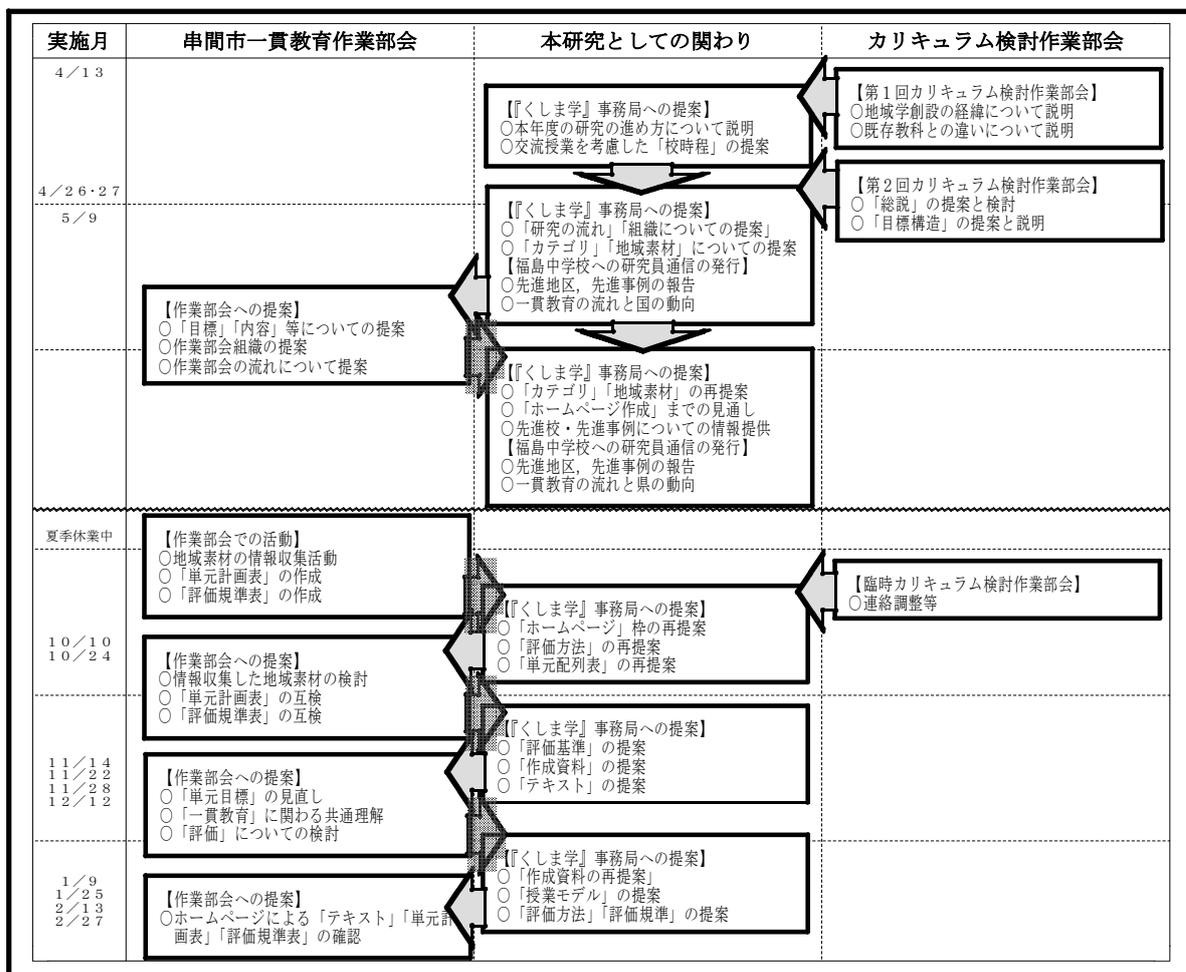


【資料7】『くしま学』部会の組織と関わり

具体的には、地域が必要としている情報の原案等を作成・提案することで、作業部会や推進部会の時に意見交換を行いやすくした。また、資料提供により、『くしま学』部会と本研究を情報交換しつつ同時並行的に進め、相互の関わりを継続的に保つことで本研究も

生かされ、来年度以降も継続した研究を行うことが可能であると考えた。（【資料8】参照）

また、地域部会の一端を担うことで、地区の教職員の特区という制度改革に伴う新教科創造のための教職員の準備のための負担を削減できたと考えた。



【資料8】県の作業部会と串間市の部会と本研究の関わりと流れ（一部省略）

(2) 『くしま学』の評価について

『くしま学』の評価については、本年度作成した評価規準表をもとに「行動観察評価」と、ポートフォリオを活用した「ポートフォリオ評価法」の2本柱で評価を行い通知表や指導要録等には記述式で実施することとした。

行動観察評価では、作成した「目指す児童生徒像」で示した評価規準表と、実際の児童生徒の活動を照らし合わせて、観点別に評価を行うようにした。観点別評価については、評価規準表を使用したチェック法でも評価規準表を使用した記述方式でも可能とした。

ポートフォリオの評価方法では、基準準拠型ポートフォリオの考え方を基に整理させるため、児童生徒が活動の中で収集した資料をファイリングするような方法を例示した。

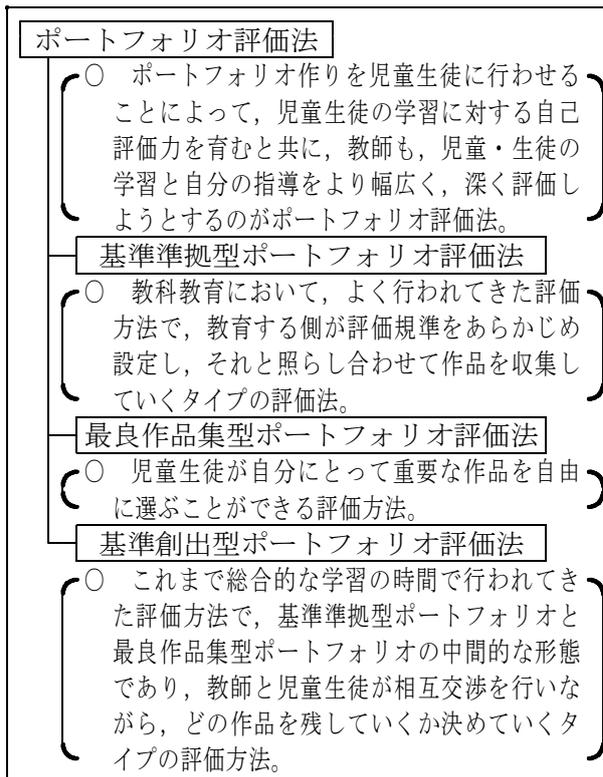
例えば、ファイリングした資料が、教師が設定した目標に沿っているかについて児童生徒に検討させ、児童生徒に取捨選択させることにした。（【資料9】参照）

今後の課題として、今年度は、あくまで、現在の児童生徒の現状から予想される児童生徒の活動の状態を段階的に示し、評価規準を設定している。そのため、本年度作成した評価規準表は、『くしま学』での児童生徒の実態を基にしておらず、来年度実践していく中で、評価規準表の見直しを定期的に行っていく必要がある。

来年度からの『くしま学』の授業では、児童生徒の活動の様子は、多様な児童生徒の状態を示すと考えられるため、○や×によって評価することができない。そのため、評価規準づくりでは、行動の指標を例示したものさし作りが必要になってくる。評価規準の見直しでは、児童生徒の実態に即したのものさしを作るために、実践を積み重ねながら、十分に児童生徒のデータを蓄積しておく必要がある。それは、児童生徒の活動やその実態が、本来『くしま学』が意図する方向に向いているかを確認することにもつながると考える。

また、各学級間や各学校間を越えたものさしのようなものが作成されなければならないと考える。つまり、小小連携、中中連携により、評価規準のスタンダードを作成（ものさしを明らかに）することで、保護者などへの説明責任を果たす上でも効果的な活用が可能であると考えられる。

今後、串間市では、『くしま学』の児童生徒の実態を踏まえた評価規準のスタンダードの作成をしていくようにする必要がある。



【資料9 ポートフォリオ評価法の分類】

(3) 児童生徒が意欲的に取り組む授業の提案

本研究では、来年度から実施される『くしま学』について、児童生徒が意欲的に取り組む授業のモデルプランを提案することにした。意欲的に児童生徒が取り組むために、授業構築の中心に据えた考えは、「実際に地元の住民の方の家に外向き、触れ合い、活動やインタビューしてみる」「体験活動を通して、自分の身近である串間の未来や自分の将来について考える機会を持つ」「人前で自分の考えや意見を述べる機会を設ける」の3点である。

ただし、本年度は、現行の教育課程で行うために、総合的な学習の時間で行うこととし、本カテゴリのねらいを達成するために、他教科との関連も図りながら計画を立てていくこととした。また、本授業の提案によって、来年度の授業の流れが理解できるような工夫も取り入れることとした。以下に、公開授業で使用した学習指導過程を載せる。（【資料10】参照）

家庭科を合わせた全21時間で、教師が配布したワークシートや児童が集めた資料等は、全てポートフォリオに収めることとした。児童は、その資料を活用して、本時のマイカルタ作成に臨んだ。（授業の様子は【写真1】参照）

なお、ポートフォリオは、今回の授業に限り、基準創出型ポートフォリオ評価法で行うこととした。

授業中には、映像や画像でこれまでの授業を振り返る段階もあり、公開授業で1カテゴリの扱いと本授業の提案を行うことにより、参観をした先生に『くしま学』の見通しを持っていただくことができたと考えた。



【写真1 公開授業の様子】

成果としては、

- 『くしま学』部会に参加をしていなかった串間市の先生に、『くしま学』の1学年1カテゴリあたりの流れがわかりやすく示されたこと。
- 小学校では、『くしま学』と他教科をリンクさせることにより、より深く学習が可能になること。
- 技能教科のように活動が多く取り入れられることから、児童生徒が積極的に授業に参加をすること。

などが挙げられた。

一方、今後の課題としては、

- 1単位時間あたりにわかりやすくキャリア教育の視点を入れることができず、総合的な学習の時間との差を明確に表現することができなかったこと。
- 中学校・高等学校では、教科担任制であるために、他教科との連携を図るためには時間がかかり来年度は無理であるということ、などが挙げられた。

指導計画くしま学10時間・関連 家庭科11時間(計21時間)

段階	月	時間	くしま学		家庭科		指導上の留意点
			学習内容及び学習活動	時間	学習内容及び学習活動	時間	
見つけよう (2)	1月	1	単元名「こんにちは!大先輩」 目標「地域の高齢者との触れ合いを通して、高齢者と共に生きる 串間の未来とこれからの自分にできることについて考える。」		単元名「地域とのつながりを広げよう」 目標「地域の環境や人との関わりを考え、実行しようとする態 度を育てる。」		○ 高齢化社会の問題や自分たちにもできそうな身近なボランティアへ目を向けることができるように助言する。 ○ 3～4名程度のグループを編成し、アトラダムに訪問先を割り当て、交流活動の計画を立てるようにする。 ○ 協力を必要とする地域の方々とは、事前に連絡を取っておく。 ○ インタビューでの成果や問題点を基に、自分たちの計画を見直すように助言する。 ○ 1回目の訪問時と同様、訪問に際しての事前指導を十分に行う。
		1	◇ お年寄りの生活の様子を知る。 ① 高齢者の生活についてVTRを見る。 ② 感じたことや驚いたことを感想としてまとめる。	1	③ 自分たちの生活が地域の高齢者どのような関わりがあるか考える。		
		2	◇ グループで高齢者のお宅を訪問する。 ① インタビューをする。	1	◇ お宅訪問の計画を立てる。 ① グループごとに計画を立てる。		
		4	◇ 高齢者とのよりよいネットワーク作りについて考える。 ① お宅訪問で分かったこと ② 問題点は何か ③ 自分たちに何ができるか ④ 依頼文を書く				
		1	◇ 自分たちで立てた計画を基に活動に取り組む。 ① お互いに趣味を生かした活動 ② お手伝いを中心とした活動 ③ 高齢者から学ぼうとする活動	2	④ グループごとに活動の様子や発見したこと、今後の問題について振り返る。 ① 振り返りまとめる。 ・学んだこと、成果 ・自分との関わり ・くしまとの関わり ・串間の未来と将来の自分		
まとめ て発表 しよう (2)		1	② 発表を通して他のグループの活動を知る。	1			○ 相手の高齢者の立場や気持ちを考えて、よりよいコミュニケーションができた喜びや高齢者に対する意識の変容などをお互いに意見交換できるように助言する。
振り 返ろう (1)		1	◇ マイカルタを作り発表する。 (本時10/10)				○ 学習の過程で経験したことや感じたことをまとめておき、単文作りで活用できるようにする。
広げ よう (6)	2月			4	◇ 学習をもとに自分の生活の仕方を考え、実践する。 ① 分かったこと、これから続けて生かしていきたいことなどを考える。 ② 学習したことを地域や周りの人々に伝えるための計画を立てる。		○ 学習を通して気づいた高齢者とのネットワークをこれからも活用するように助言する。
	3月			2	③ 簡単な菓子や飲み物を用意し、高齢者を招き、報告会を開く。		

段階	時間	主な学習内容及び学習活動	○教師の支援・評価	資料・準備
見つけよう	7分	1 これまでの学習を振り返る。 ○ 活動の様子 ○ 発見したこと ○ 今後の課題 2 本時の、めあてを確認する。	○ 交流活動を振り返り、串間を支えてきた高齢者の経験や知恵のすばらしさについて考えることができるようにする。 ○ 高齢者と共に生きる串間の未来や将来の自分にできることを見据えての思いを5・7・5・7・7の単文に表し、みんなの前で語る活動であることを確認する。	活動の様子(VTR, 模造紙) 学習計画表
さぐろう	20分	3 「こんにちは!大先輩」で学んだことを単文で表す。 ○ 個人で考える。 ・気づいたこと ・エピソード ・問題点 ・これからの私 4 マイカルタを作成する。 ○ 高齢者との交流活動を通して学んだ、高齢者と共に生きる串間の未来や自分にできることを見据えた思いを上札と下札にまとめる。	○ ワークシートに書かせることによって、自分の考えを明らかにさせ、スムーズに単文作りができるようにする。 ○ 単文作りが困難な児童には、ワークシートに児童が表現した言葉を用いて、教師が単文を校正するなどの支援を行う。 ○ くしまや自分を意識した単文が書けるようにキーワードを押さえる。 高年齢者と共に生きる串間の未来や自分にできることを見据え、地域の高齢者との触れ合いを大切に生活していこうとする思いを表現することができたか。(ワークシート) A:串間の未来や自分にできることについて書くことができる。 B:単文を書くことができる。 C:二人で単文を書くことが難しい。 ○ マイカルタが完成した児童には、発表の準備ができるように発表マニュアルを作成し、練習をさせておく。	ワークシート キーワード 上札 下札 筆ペン 発表マニュアル
まとめ て発表 しよう	15分	5 マイカルタを紹介する。 ○ マイカルタにのせた思いを述べる。	○ 発表マニュアルを準備しておき、児童が自分の言葉で思いを述べやすくする。 ○ 一人一人が紹介する際に拡大投影機を活用し、発表する児童が作成したマイカルタが学級の全員に見えるようにする。 ○ マイカルタを模造紙に貼らせることで、常に授業のあしあとを振り返ることができるようにする。	拡大投影機 上札 下札 模造紙
振り返ろう	3分	6 学習内容を振り返り、次時の活動内容を知る。	○ 本時の学習を振り返り、次時の活動を知らせる。	学習計画表

【資料10 他教科との関連を明示した単元計画表と本時の学習指導過程】

VII 研究の成果と今後の課題

本研究では、本研究の目的である「『くしま学』に意欲を持って取り組む児童生徒の育成を図るための『くしま学』の創造」という面と、「来年度、串間市全体の小中高等学校で『くしま学』を実践するための『くしま学』の創造」という2面がある。それぞれは、ばらばらのものではなく、他の教科と同様に、教科が既知のものとして存在し、共通の取り組む土台があり、その中で特化して研究を行うことが望ましい。しかし、本年度特区申請が認可され、来年度から実践することを考えると、地域のスタンダード作りも非常に重要であると考え本研究を進めてきた。そこで、本研究そのものの成果と課題はもちろんであるが、来年度以降に実践を行っていく『くしま学』の本年度の成果と課題についても述べることにした。

1 研究の成果（○…本研究での成果，△…串間市一貫教育部会としての成果）

- 『くしま学』の授業で取り扱う単元計画表やテキストを作成・提案することができ、児童生徒及び教師が新教科学習をより進めやすく準備することができた。
- これまでの総合的な学習の時間の課題の一つであった逆転等を考慮した系統性・一貫性を重視した単元配列表を12年間を見通して配列し、作成することができた。
- 串間市部会と連携を図ることで、本研究で取り組んだことが多く採用された。
- 上記の取り組みにより、今年度取り組んできた本研究の『くしま学』創造について、来年度以降、検証を行うことが可能となった。
- △ 単元計画表、評価規準表のひな型や参考例を作成・提案することで、制度変更に伴う職員の負担を削減するための手助けを行うことができた。

2 今後の課題（●…本研究での課題，▲…串間市一貫教育部会としての課題）

- 本研究の関連として、意欲的に取り組む児童生徒を育成する授業の公開授業を行ったが、単元配列等が児童生徒の実態に合っているのか、本当にそれらによって児童生徒が意欲的に『くしま学』に取り組むようになるのかを今後検証する必要がある。
- 本研究では、1単位時間あたりの略案が作成されていないため、具体的に1単位時間をどのように使うかがはっきりとされず、即活用可能な所までたどり着かなかった。
- 本年度に、現在の児童生徒の姿をもとに評価規準表を作成した。しかし、新教科として実践する中で分かることもあり、来年度以降の『くしま学』の評価規準表については、実践した児童生徒の実態から評価規準表を再構築することが望ましい。
- 本研究としては、『くしま学』と公開授業との関わりは持てたものの、本研究で提案授業を行うことができなかつたため、来年度実施時に、多くの改善点が出てくると考えられる。
- ▲ 次年度以降、反省や改善点を生かすために組織的に取り組めるような機会や組織を作っていく必要がある。
- ▲ 本年度は、『くしま学』実施に向けて準備するのが手一杯で、教科についての考え方や取り組み方、1単位時間あたりの教材研究など、『くしま学』についての教職員間の共通理解をすすめる場があまり設定されなかった。

—— 引用文献 ——

1) 中央教育審議会 義務教育特別部会 (第33回・第34回) 議事録・配付資料 総合的な学習の時間の成果と課題
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo6/gijiroku/001/05090901/002/014.htm [2007. 8. 24取得]

—— 参考文献 ——

宮崎県教育委員会 (平成15年3月) 宮崎の教育創造プラン
図書文化 教科と総合に生かすポートフォリオ評価表
串間市教育委員会 (平成19年2月) 一貫教育推進総合計画
至文堂 (1995年4月) 発行現代のエスプリ 「意欲」やる気と生きがい
串間市各小中高等学校 (平成19年度版) 「総合的な学習の時間」年間指導計画
文部科学省 (平成5年6月) 『中学校 技術・家庭 指導資料 学習指導と評価』
文部科学省 (平成11年5月) 『小学校学習指導要領解説 社会編』
文部科学省 (平成10年12月) 『中学校学習指導要領解説 社会編』
文部省 (平成11年5月) 『小学校学習指導要領解説 生活編』
文部省 (平成元年6月) 『小学校指導書 社会編』
教育出版 (平成14年2月) 『生活科の授業と評価(上)(下)』
清水書院 (平成15年9月) 『高等学校公民科指導と評価』
中央教育審議会(昭和46年)今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について(答申)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/chuuou/toushin/710601.htm#6 [2007. 7. 12取得]
臨時教育審議会(昭和61年)第2 初等・中等教育改革の基本構想1 人間の発達過程に応じた学校体系の開発(答申)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/710601.htm#42 [2007. 7. 12取得]
中央教育審議会(平成9年)「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」第二次答申の骨子
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/4/970601.htm [2007. 7. 13取得]
中央教育審議会(平成15年)第2章 新しい時代にふさわしい教育基本法の在り方について(答申)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/030301c.htm [2007. 7. 13取得]
中央教育審議会(平成17年)新しい時代の義務教育を創造する(答申)第Ⅱ部 各論 第1章 教育の目標を明確にして結果を検証し質を保証するー義務教育の使命の明確化及び教育内容の改善ー(答申)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05102601/004.htm [2007. 8. 24取得]
宮崎県教育委員会(平成13年)宮崎の教育創造プラン「プラン策定のための意見聴取等の経過」
<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kyoiku/gakkou/kyouiku-plan/index.htm> [2007. 8. 24取得]
串間市役所(平成19年3月14日登録)平成19年度 施政方針串間市
http://www.city.kushima.miyazaki.jp/Cgi-bin/odb-get.exe?WIT_template=AM020000 [2007. 8. 24取得]
文部科学省 中学校学習指導要領 第1章 総則 第4 総合的な学習の時間の取り扱い
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/001.htm [2007. 8. 24取得]
中央教育審議会(平成15年)職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/005/03071801/010/006.htm [2007. 10. 12取得]
キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議(2004年1月)
職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)ー職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の視点から
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002/007.pdf [2007. 10. 12取得]

〈研究実践学校〉 串間市立福島中学校
〈研究協力〉 南那珂教育事務所, 串間市教育委員会
〈研究協力学校〉 串間市立福島小学校, 串間市立有明小学校, 串間市立笠祇小学校,
串間市立北方小学校, 串間市立金谷小学校, 串間市立秋山小学校,
串間市立大東小学校, 串間市立大東小学校, 串間市立大平小学校,
串間市立本城小学校, 串間市立市木小学校, 串間市立市木小学校築島分校,
串間市立都井小学校, 串間市立北方中学校, 串間市立大東中学校,
串間市立本城中学校, 串間市立市木中学校, 串間市立都井中学校